

患者様に寄り添う 看護をめざして





JCHO 福岡ゆたか中央病院の理念

理想的な地域包括ケアを実現することで、病む人と職員が幸せになり、地域社会が健やかに栄える病院を目指します。

病院の概要 Hospital overview

- ・病床数 152 床（急性期一般82床
地域包括ケア病棟 50 床
結核病床 20 床）
- ・15 診療科
- ・職員数 318 名（令和 7 年 4 月 1 日現在）
- ・一般病床 平均在院日数 16 日（令和 6 年度）
病床利用率 80.0%（令和 6 年度）

病院の沿革 History of the hospital

- 昭和 23 年 健康保険厚生荘病院として発足
- 昭和 47 年 健康保険直方中央病院に名称変更
- 平成 16 年 現在地へ新築移転
- 平成 22 年 入院基本料 7 : 1
外来化学療法室を開設
- 平成 26 年 独立行政法人地域医療機能推進機構へ
移行
福岡ゆたか中央病院へ名称変更
- 平成 28 年 地域包括ケア病棟開設
- 令和 5 年 入院基本料 10 : 1



地域の人々と患者さんの視点に立った
安全で安心、良質な看護を提供し、
看護によって選ばれる病院を目指します。

基本方針

1. 急性期医療に対応できる質の高い看護を提供します。
2. 看護倫理を踏まえた患者中心の看護を実践します。
3. 患者さんに信頼される丁寧で温かいケアを提供します。
4. 他部門と協働し、患者を中心とするチーム医療を推進します。
5. 働きがいがあり、学習向上できる組織風土をつくります。

スローガン

目くばり、気くばり、心くばりで、先取りの看護をする



福岡ゆたか中央病院は急性期病棟と、地域包括ケア病棟・結核病棟を有する直方市の中核病院です。地域の医療機関や福祉・介護関係者と連携を図りながら、地域住民の皆様の健康と生活を支えています。また、健康管理センターでは健康診断以外にも保健師による保健指導を実践し、疾病の早期発見、健康の維持増進といった保健予防活動も積極的に行っています。看護部は目くばり、気くばり、心くばりで、先取りの看護を実践し、「看護で選ばれる病院」を理念に掲げています。積極的に自己研鑽に励み、最新知識の獲得や能力開発に努めています。遠賀川など自然に恵まれた環境で、高度急性期とは違い、比較的ゆっくりと患者さんに向き合え、寄り添う看護が行われています。育児時間取得、深夜勤務制限等の制度も取得しやすく、働き続けられる環境が整っています。みなさんも私たちと一緒に、仕事と私生活を充実させ人生を楽しみましょう！

看護部長 池田 浩子
JNA 認定看護管理者 Hiroko Ikeda

看護体制

Nursing system



看護職員数	155名 ※2025年4月1日現在		
看護方式	パートナーシップ・ナーシング・システム (PNS)		
	一般病棟(82床)	地域包括ケア病棟(50床)	結核病床(20床)
入院基本料	10:1	13:1	10:1
看護補助加算	25:1	25:1	—
看護体制	変則2交替・3交替		
	3階病棟	4階病棟	6階病棟
	3人夜勤	3人夜勤	3人夜勤
看護単位数	病棟3	手術室	外来
			健康管理センター
			連携室



ナースの1日

Nurse's day

2 交替をのぞいてみましょう♪



① 日勤の流れ (8:15~17:00)

Nurse's daily schedule

8:15 出勤、ペアで分担して情報収集し、1日のスケジュール確認
新人看護師は、ペアに入り3人1組です

8:30 ミーティング、受け持ち患者さんへあいさつ、
スケジュール確認、環境整備

9:00 ペアで協力して、手術当日患者さんの前処置

9:30 外科回診介助

10:00 手術患者さんの搬入・手術室への申し送り

10:30 ペアとともに午前の検温、記録、清潔ケア、時間指定の点滴・処置など
観察項目や対応についてすぐに相談できます。ダブルチェックや安全対策の
確認もペアで行います。ペアなので記録もタイムリーにできます。
看護補助者も大切なパートナーです。

11:00 リシャッフル

12:00 昼食配膳

休憩 交代でとります。

休憩の前後はペアで情報交換。

ペアのコミュニケーションが重要です。

患者さんのお昼ごはん
運んでいます♪



12:30 看護記録・引膳

14:00 午後の検温、記録
手術患者さんのお迎え
カンファレンス

15:00 リシャッフル
終了していない業務を補完します。

16:00 夜勤者へ申し送り

17:00 業務終了 ペアで協力して1日をマネジメント。定時に帰ります。



② 夜勤の流れ (16:00~9:00)

Nurse's semi-night shift schedule

16:00 出勤
情報収集 不明なことは日勤の受け持ち看護師に確認します。
患者さんへあいさつ

17:00 観察、記録、夕食準備

18:00 夕食配膳・食事介助・投薬・引膳

19:00 休憩

20:00 観察、記録、排泄援助、眠前薬投与、患者就寝準備など

21:30 消灯

23:00 定期的に巡視し、患者さんの安全を確認します。

0:00 時間指定の点滴や処置、排泄援助、投薬準備など

1:00 休憩 交代で休憩。受け持ち患者さんのことはしっかり情報共有します。

3:00 定期的に巡視し、患者さんの安全を確認します。

3:30 時間指定の点滴や処置、排泄援助、投薬準備など

6:00 起床 朝のあいさつ
検温、記録、採血、検査前準備など

8:00 朝食配膳・食事介助・投薬・引膳

8:30 ミーティング・日勤者へ申し送り

9:00 業務終了



患者さんからの
ご要望や情報は
忘れずメモ！



教育システム

Education system

JCHO のミッションである医療・地域包括ケアシステムの視点を持ち、地域住民の生活支援ができる知識・技能・態度をもった看護職員の育成を目指し、教育体制を整備しています。

看護は人間の生命や生活に深くかかわる職業であり、生涯にわたり研鑽が求められます。ラダー別の教育に取り組むとともに院内外の研修を有効に活用し、看護の質の向上、そして看護によって選ばれる病院を目指していきたいと考えています。

教育理念

看護職者としての自律と成長を目指して学び続ける。

教育目的

1. 地域住民の多様なニーズに応える安全・安心な看護を提供できる人材を育成する。
2. 看護専門職としての責任を自覚し、主体的に学習するとともに、組織目標達成のために貢献できる人材を育成する。

キャリアラダーについて

福岡ゆたか中央病院の目指す看護を実践できる看護師を育成するために、福岡ゆたか中央病院のキャリアラダーを作成し活用しています。

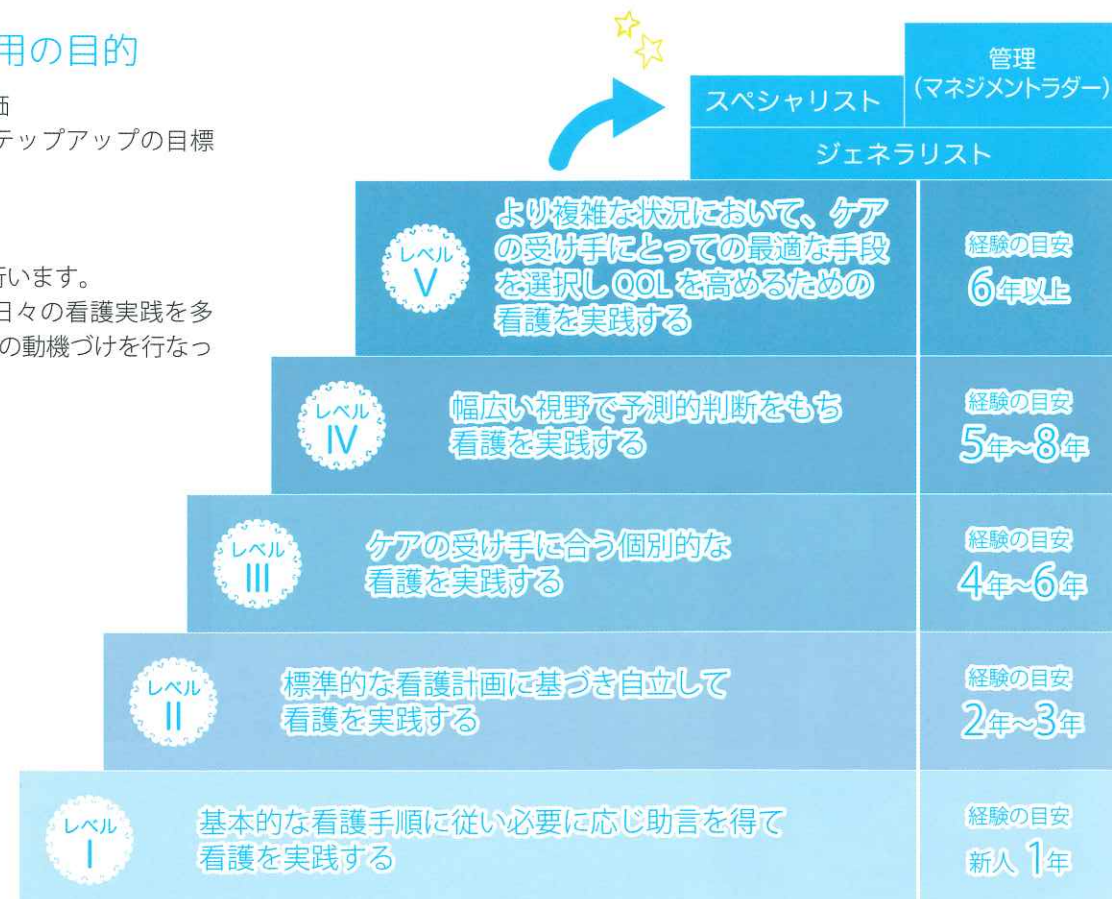
キャリアラダーには、当院で勤務する看護師に求める能力を、看護実践能力、組織的役割遂行能力、自己教育・研究能力で示しました。看護の核となる実践能力は、「看護師のクリニカルラダー（日本看護協会版）」で示された4つの能力（ニーズをとらえる力、ケアする力、協働する力、意思決定を支える力）を標準指標とし、継続的なキャリア発達支援を可能にします。

キャリアラダー活用目的

1. 看護実践力の適正な評価
2. 看護職自身の成長のステップアップの目標

ラダー認定

年度末にラダー認定を行います。
目標面接月にあわせ、日々の看護実践を多角的に評価し、認定申請の動機づけを行っています。



教育目標

1. レディネスにあった院内外の研修会に主体的に参加し、日常の看護に役立てることができる。
2. 問題解決能力・判断力を身につけることができる。
3. 患者および地域住民のニーズを理解して対象に応じた看護の実現に向けた活動ができる。
4. チーム医療における看護師の役割と責任を自覚し、協働できる。



嬉しいサポートが
やさしい
気持ち
いってくれる
一緒に
心細くなった時、
手いっぱい
の時、

みんなでサポートします！

新人時代は慣れない環境での初めての経験ばかりで、時には不安になることもあるでしょう。そんな時、心の支えになってくれるのがプリセプターです。相談しやすい心強い先輩がいつも傍であなを見守ってくれます。プリセプター以外の先輩や上司にも気軽に相談できる環境が整っており看護部さらには病院全体でサポートします。

研修教材

研修で使用する注射モデル、気管・口腔吸引モデルに加え、看護スキルアップのための教材が充実しています。



注射モデルや吸引モデルなどの教材も♪

プリセプター

1年間を通して、パートナーを組んで支えてくれます。

実地指導者

経験5年以上の中堅・ベテラン看護師が直接、技術指導してくれます。



支えてくれる先輩たちとたくさんの教材があってとても心強いんです☆

看護ユニットのご紹介

Introduction of Nursing unit

外 来

子育てと仕事が両立できる職場

外来では約25名の看護師が、各診療科の診察・検査・処置の介助、救急搬送された患者さんやご家族の対応等、幅広い看護を実践しています。緩和ケア認定看護師、糖尿病療養指導士等の資格を有した看護師が配置されており、専門性を生かした看護を行うと共に、患者さんが住み慣れた場所で療養生活が送れるように、生活指導や意思決定支援にも取り組んでいます。外来診療という短い時間の中で、よりよい看護支援が展開でき、患者さんが安心して日常生活が送れるよう日々取り組んでいます。



3 階病棟

若いスタッフが生き活きとはたらく明るい病棟

急性期一般病床で外科・整形外科で計49床の病棟です。外科は消化器疾患が主であり、整形外科では骨折の患者さんが大半を占めています。外科・整形外科ともに手術を受けられる患者さんが多く、術前から術後までの周術期看護において切れ目のない看護を実践しています。また手術以外でも化学療法や終末期の患者さんもおられます。安心して治療が受けられるよう、常に寄り添い、質の高い看護の提供を心がけています。患者さんが療養生活において、自分の意思で治療を考えることができるよう意思決定支援にも取り組んでいます。



4 階病棟

笑顔の行き交う、調和のとれた温かい職場

地域包括ケア病棟では、急性期治療を終えた患者さんが安心して在宅や施設へ移行できるよう、多職種と連携しながら在宅療養支援やリハビリを中心に看護を行っています。

その他に、眼科白内障手術、内視鏡検査、糖尿病教育入院など、幅広い疾患や生活背景の患者さんに対応しています。

看護体制は、PNS（パートナーシップ・ナーシングシステム）を取り入れており、常に先輩とペアで行動するため、新人看護師も安心して成長していける環境が整っています。

スタッフ同士の距離が近く、アットホームな雰囲気の中で自然と笑顔が生まれる活気ある職場です。結婚、子育てと両立しやすく、キャリアアップも応援する環境で、私たちと一緒に、地域とつながる寄り添う支援を行ってみたいですね。



6 階病棟

「笑顔がたえない家庭的な雰囲気」を大切に・・・

6階病棟は53床（急性期一般内科33床、結核20床）の病棟です、主に呼吸器・循環器・膠原病などの患者さんが入院されています。どの患者さんも病気に対しての不安、ストレスを抱えて入院生活を送られていると思います。私達は患者さんの不安な思いに共感し、患者さんの視点に立った看護が提供できるように日々努力しております。また、患者さんのQOLを大切に、治療に対する不安などの精神的サポートや退院後の生活を見据えた支援が出来るように多職種と連携し、患者さんやご家族に寄り添った看護を目指しています。



医療安全管理室

患者様が安心して安全に治療・看護が受けられ、
職員が安心して安全に働ける職場環境作りを目指して！

医療安全管理室は、安全で質の高い医療・看護サービスの提供を図ることを目的とし、組織横断的に院内の安全を担う部署です。医療安全管理者として、インシデント・アクシデント報告に基づき、医療事故の予防、発生時の適切な対応並びに再発防止対策など、当院における医療安全体制を確立し、各部署責任者とともに患者さんやご家族の安らぎの確保及び職員の安全確保に向けて取り組んでいます。



感染管理室

感染対策を強化し安心して来院できる病院を目指して！

新型コロナウイルス感染症や薬剤耐性菌など院内感染の発生を予防し、また感染した場合、感染症が広がらないように速やかに対策を図り迅速かつ的確に感染症を収束させることを目的に業務を行っています。
感染管理とは、患者さんやそのご家族、病院職員、研修生、業者の方など病院へ出入りする全ての人々を感染から守り、感染対策を通して質の高い医療を提供する役割を担う部門です。現在感染管理者2名で活動しています。



健康管理センター

あなたの未来を支える身体の確認

健康管理センターでは、年間約3万人の健康診断を行っています。健診車を2台保有し、直轄地域、北九州市を中心に年間を通して学校や事業所の巡回健診を行っています。看護師6名、保健師4名、事務職員17名が働いており、JCHO九州地区の中でも規模の大きい健康管理センターです。看護師は、安心安全な健康診断の実施に加え、精度の高い結果が提供できるよう日々研鑽しています。保健師は、地域や働く人の生活習慣病改善に向けて、栄養士や理学療法士と協働して特定保健指導の質向上と件数増加に取り組んでいます。



手術室

手術前・手術中・手術後の看護連携とチーム医療で
患者様に安全・安心を提供する手術室

当院の手術室は3室あり、主に外科・整形外科・眼科の手術が行われています。高度で複雑な医療機器を毎日扱うため、安全で質の高い医療を提供できるよう他職種と連携し、チームで手術のサポートを行います。
手術室看護師は1年目からベテランまで幅広い構成となっており、術前・術後訪問を通じて、不安を抱えながら手術に臨む患者さん、ご家族の気持ちに寄り添い、不安や緊張を少しでも軽減できるよう努めています。また現状に満足せず、より質の高い看護の提供を目指して、日々の勉強会、研修にも力を注いでいます。



地域医療連携室

「地域と病院の架け橋」

地域医療連携室は、患者さんが住み慣れた地域で安心して生活できるように、医療機関や施設と互いに連携を取り合い、切れ目のない医療や介護を提供するための部門です。

前方支援では、地域の医療機関からの窓口となり、受診や入院相談等を行っています。後方支援では、医療ソーシャルワーカーが患者さんやご家族の希望に添った退院支援を行うため、入院時から多職種と連携し調整しています。今後は入退院支援センターを立ち上げ、入院前から充実した支援ができるよう取り組んでいく方針です。

併設の患者サポート相談室では患者さんやそのご家族が抱く医療・福祉・介護・サービスについての悩みごとおよび費用についてなど、様々な相談に応じています。



キャリアアップ支援

Career improvement support

看護職員一人ひとりが自分の目標を掲げ、働きながらキャリアアップを図れるように応援します。資格取得についても全面的にサポートしています。

認定看護師からのメッセージ

Message from Certified nurse



糖尿病看護認定看護師



看護師長 桑幡 まゆみ
1993年入職
近畿大学付属福岡高等学校 卒

糖尿病患者さんへの看護の難しさを感じていた時に、上司の勧めもあり糖尿病看護認定看護師教育課程を受講しました。資格取得には7か月程の研修期間が必要でしたが、看護部長や副看護部長をはじめ職場スタッフのサポートがあり、快く送り出して頂きました。そのお陰で認定看護師として10年目を迎え、糖尿病患者さんやその家族の思いに寄り添った生活調整支援にチームで活動できています。

現在、院内にはリソースナースとして認定看護師5分野7名と、特定行為研修を受講中の看護師もいます。その様な目標をお持ちの方には大変良い環境だと思います。

糖尿病教育入院を担当していた内科病棟で勤務していました。糖尿病患者さんの療養指導に関わり困難さを強く感じている時に、上司のすすめもあり、糖尿病看護認定看護師教育課程を受講しました。上司や病棟スタッフの支えがあり無事に卒業できました。

現在は、糖尿病を持つ患者さんが合併症を発症させることなく健康的な生活を送ることができるよう、多職種で連携しながらチームで介入しています。

キャリアアップにあたり、支援体制が整っている環境だと思います。

糖尿病看護認定看護師



看護師長 古賀 美紀
2009年入職
中部労災看護専門学校 卒

感染管理認定看護師



看護師長 中山 佐代子
2009年入職
国際医療福祉大学 卒

院内感染対策委員として活動する中、内科病棟から結核病棟へ異動となり感染症看護の知識が必要で学習を行っていました。その頃、上司から「感染管理認定看護師を目指しませんか？」と声をかけられ、上司と同僚に支えられ専門的な研修を受けて資格を取得しました。2020年の新型コロナウイルス感染症の流行では、感染の知識を基に保健所や院内の多職種と連携し患者を受け入れることができました。今後、新興感染症が発生した際にも感染症に負けない強い病院を目指しています。感染管理の業務は国内でニーズが高まっているため、一緒に頑張りませんか？

治療期から終末期まで多くの患者さんと関わり、経験も長くなってきた数年前。医療者として自信を持って携われる分野がないままに看護師人生を終えてよいのか、と考えるようになりました。自分にしかできない役割を持ちたいと認定学校進学を決め、久留米大学に興味があった緩和ケア分野があることを知り受講、資格を取得しました。「がん」という病は、診断期から様々な苦痛を生じさせます。現在は、専門知識を持って患者さんの苦痛を軽減できるように毎日関わっています。当時の上司・同僚には、進学の際にたくさんの応援と、9ヶ月間学習に専念できる環境をいただき、とても感謝しています。何歳になっても学ぶチャンスを与える病院だと思います。

緩和ケア認定看護師



副看護師長 安田 久美
2013年入職
北九州市立看護学校 卒

認知症看護認定看護師



副看護師長 先田 あゆみ
2014年入職
原看護専門学校 卒

私が認知症看護認定看護師を目指したきっかけは、入院する認知症患者さんへの対応について悩むことが多く、どのように関われば治療や看護を受け入れ穏やかな入院生活を送って頂けるのだろうかと思った事です。

私は地元を離れ、山陰地方で認知症看護認定看護師教育課程を受講しました。7ヶ月という長い受講期間でしたが、病院のサポートがあり安心して認知症看護を学ぶことができました。

認定看護師教育課程では、専門知識や高度な技術を学ぶため決して楽ではありませんが、自己の自信に繋がります。今後も、認知症看護のロールモデルとしてスタッフとともに認知症看護の質の向上に努めていきたいと考えています。

アクセス

Access

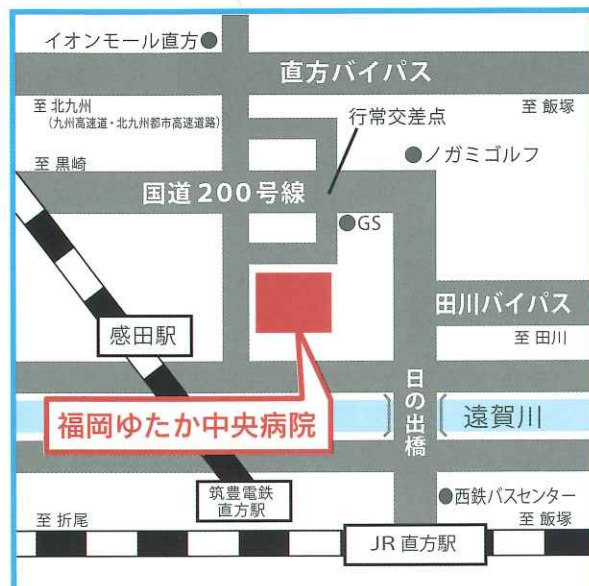
◆お車をご利用の場合

福岡方面		福岡 IC より約 35 分	
福岡 IC	九州自動車道	八幡 IC	約 10 分
	約 25 分		
北九州方面		小倉駅北より約 32 分	
小倉駅北	北九州都市高速	金剛	約 10 分
	約 22 分		

◆公共交通機関をご利用の場合

福岡方面		博多駅より約 66 分		西鉄バス	
JR博多駅	福北ゆたか線	JR直方駅	イオンモール直方行き	約 11 分	
	約 56 分				
北九州方面		小倉駅より約 55 分		西鉄バス	
JR小倉駅	福北ゆたか線	JR直方駅	イオンモール直方行き	約 11 分	
	約 41 分				
JR小倉駅	鹿児島本線	黒崎	筑豊電気鉄道	感田	徒歩
	約 20 分		約 30 分		約 5 分

福岡ゆたか中央病院



直方駅方面からは国道200号線、行常交差点を左折。
黒崎方面からは同じく国道200号線 行常交差点を
右折。電車・バスの詳細は、各会社のホームページを
ご確認ください。



独立行政法人 地域医療機能推進機構
福岡ゆたか中央病院

〒822-0001

福岡県直方市大字感田523番地5

TEL 0949-26-2311

FAX 0949-26-6748

<https://fukuoka.jcho.go.jp>



スマホでアクセス
してみてください★